

第4回専門委員会での主な意見と対応状況

No	章	ページ	委員名	意見要旨	対応状況
1	第1章		藤波委員	・SDGsの根底には「予防」ということが念頭にある。「予防」を意識した表現を検討してはどうか。	・施策の実施に当たり、留意します。
2	第2章	5	河口委員	・第2章「持続可能な社会の構築に関する状況」が相対的にみて分量が少ない。SDGsに関する国の動向のほかに、企業の動向にも触れてはどうか。	・民間企業の動向について記載しました。
3	第2章	7	河口委員	・「環境のためになること(環境に配慮した暮らし)」に係る県民意識調査について、何をもって「環境に配慮しているのか」ということは人によって異なる。今後の調査の中で工夫が必要。	・来年度以降の意識調査で設問を検討します。
4	第2章	7	田中委員	・環境意識と環境行動との相関関係は強くない。どのような環境行動を取っているのかということを考えることが必要。	・施策の実施に当たり、留意します。
5	第2章		平林委員	・グラフの年号は統一した表記とした方がよい。	・ご意見を踏まえて、西暦の表記に統一しました。
6	第2章		藤波委員	・グラフの色はカラーに統一した方がよい。	・ご意見を踏まえて、修正しました。
7	第3章	15	河口委員	・第3章「持続可能な社会の構築」について「実践する人が増えている」のではなく、「誰もが実践している」とした方がよいのではないかと。また、「新たなライフスタイル」に関しては、「長野県らしい持続可能なまちづくり」といったことも触れてはどうか。	・ご意見を踏まえて、将来像の表現を修正しました。
8	第3章	15	河口委員	・あらゆる主体とのパートナーシップに関して、これからは金融機関の役割も大きい。「金融機関」を加えてはどうか。	・「パートナーシップ」を構築する主体の一つに「金融機関」を加え、第1章及び第4章の推進主体についても、関係する施策に「金融機関」を記載しました。
9	第3章	16	河口委員	・ヨーロッパでは「サーキュラーエコノミー」という言葉が盛んに使われている。今後5年間の計画の中では、このような発想を持つことが必要。	・ご意見を踏まえて、将来像の表現を修正しました。
10	第3章	17	田中委員	・イメージイラストは分かりやすさにはつながらない。イメージイラストよりは、図解を入れて解説した方がよい。	(別紙のとおりイメージ図を作成)
11	第4章	18	河口委員	・基本目標について、「豊かな自然」は他県でも使う表現だと思うので、どこかに長野県らしさが表現されているとよい。	・ご意見を踏まえて、基本目標を修正しました。

No	章	ページ	委員名	意見要旨	対応状況
12	第4章	18	平林委員	・基本目標について、「共に創り」と「豊かな自然」とのつながりに違和感がある。	・ご意見を踏まえて、基本目標を修正しました。
13	第4章	18	田中委員	・基本目標については、解釈・考え方を明確かつ誤解のない形で記載しておくことが必要。可能であれば、数値を裏付けとして活用することも必要。	・ご意見を踏まえて、基本目標の意味を記載しました。数値による裏付けは、施策の実施に当たり、留意します。
14	第4章	18	河口委員	・SDGsの17のゴールの多くが相互につながっているため、実施施策とSDGsとのつながりについて、第4章の始まりに記載してはどうか。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
15	第4章	20	大和田委員	・「都市農村交流人口」を目標に設定することはよいが、内容によっては、もう少し広いものを検討してもよいのではないかと。	・これに代わる適当な指標がないため、「都市農村交流人口」を目標としました。
16	第4章	22	田中委員	・中国の河北省やドイツとの交流を進めていることから、「海外との協力」について記載してはどうか。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
17	第4章	23	田中委員	・環境保全研究所の機能強化に関連して、中長期的な政策課題に対応するため、行政として政策の研究に取り組む必要がある。	・今後5年間で具体的な政策研究に取り組むことは難しいと考えています。 ・ご意見を踏まえて、第5章(52ページ)に職員の政策立案能力の向上に取り組む旨を記載しました。
18	第4章	23	田中委員	・環境保全研究所では、自然科学分野だけでなく、社会工学や政策科学などの分野も担えるようになるとうい。	・施策の実施に当たり、留意します。
19	第4章	23	藤波委員	・国立環境研究所には「パートナーシップ」に関する研究者がいるので、環境保全研究所においてもこうした研究者との連携を図り、実践的な取組が進められるとうい。	・施策の実施に当たり、留意します。
20	第4章	32	大和田委員	・数値目標には、「生物多様性パートナーシップ協定の件数」や「エコファーマーの数」などを取り入れてもよいのではないかと。	・事業の進捗管理に当たっては、アウトプット指標も必要と考えておりますので、その中で検討してまいります。
21	第4章	33	平林委員	・希少野生動植物対策について、長野県では保護回復計画を作った後に、見直しを行っている。他県ではみられないことであり、このことについて触れた方がよい。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
22	第4章	36	大和田委員	・コラムなどでは、地図上にプロットする表現は分かりやすい。例えば、森林セラピーのコラムではセラピー基地を地図上にプロットするなど。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
23	第4章	37・43	平林委員	・「水環境の保全」と「大気環境の保全」の数値目標について、もう手の打ちようがないところまで至っているものと感じるので、別の指標を検討してはどうか。	・ご意見を踏まえて、一部の指標を追加・変更しました。

No	章	ページ	委員名	意見要旨	対応状況
24	第4章	43	河口委員	・県内にも流れ込んでくるPM2.5への対応について、記載してはどうか。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
25	第4章	47	河口委員	・プラスチックごみに対する規制について、記載してはどうか。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
26	第4章		藤波委員	・イラストやコラムなどを入れて、読みやすくしてもらいたい。	・ご意見を踏まえて、記載しました。
27	垂直・水平ゾーニング		平林委員	・「垂直ゾーニング」や「水平ゾーニング」について、字数を減らし、分かりやすいものとした方がよい。	・ご意見を踏まえて、修正しました。
28	概要版		平林委員	・「概要版」について、どれが重点的に取り組む施策なのか、分かるようにした方がよい。 ・第5章の図解と本文の内容との整合が取れていない。	・資料2のとおり、概要版を作成しました。
29	その他		田中委員	・第3章の「将来像」、第4章の「実施施策」についても、数字の裏付けを持つことが必要。第3章はアウトカム指標、第4章がアウトプット指標を用意する必要がある。	・アウトプットを含め、詳細な指標を検討し、今後5年間の進捗管理を図ってまいります。
30	その他		田中委員	・環境基本計画が行政の中の計画として使えるようにするため、5年間のタイムスケジュールを作り、進捗管理を行ってほしい。	
31	その他		田中委員	・計画ができた段階で、県内で環境活動に取り組む人々に集ってもらい、計画内容を説明する機会を設けることを検討してもらいたい。	・県民への説明の機会を設け、計画の周知を図ります。
32	その他		大和田委員	・「生物多様性・自然環境の保全と利用」の数値目標にある「多面的機能の活動面積」について、現状の数値は農地面積全体のどのくらいの割合なのか、また今後の伸び率について、教えてほしい。	(参考資料)
33	その他		大和田委員	・「垂直ゾーニング」について、3つのゾーンの面積や割合が分かるとよい。	(参考資料)